

天然物に含まれる抗肥満等有用物質の探索研究契約を 株式会社 C-HAS プラスと締結

EPD 株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役：早川智久、以下 EPD）は、株式会社 C-HAS プラス（代表取締役 菊池正彦、以下 C-HAS+）と天然物に含まれる肥満や肥満関連疾患の予防・改善につながる有用物質を探索する共同研究契約を締結いたしました。

【本リリースのポイント】

- ・ EPD はヒト褐色脂肪細胞モデルによって肥満および関連する代謝性疾患の予防・改善につながる医薬品や食品成分の候補物質を発見できる可能性に着目。
- ・ 創薬志向型植物データベースや豊富な天然物バンクを活用した C-HAS+と共同研究契約を締結し、天然物に含まれる有用物質の探索を開始。

【本リリースの詳細】

厚生労働省の国民健康・栄養調査報告によれば、本邦の 20 歳以上の人の肥満者（BMI \geq 25kg/m²）の割合は、男性 33.0%、女性 22.3%とされており¹⁾、特に男性は令和元年までの 10 年間に有意に増加しています。肥満に起因ないし関連する健康障害には、糖尿病や高血圧のほか、冠動脈疾患、脳梗塞などの重大な疾患が含まれます。肥満がもたらす経済的な負担も大きく、OECD の報告書によれば OECD 諸国における医療費の約 8.4%が太りすぎを原因とした疾患の治療に費やされているとされています²⁾。

EPD はヒト皮膚の細胞から褐色脂肪細胞を作るダイレクトリプログラミング技術を有しています。この技術を用いると、簡便かつ安価にヒト褐色脂肪細胞モデル（ciBAs）を作成できるため、ciBAs に様々な化合物を作用させ、褐色脂肪細胞の活性（褐色化）を評価（スクリーニング）することによって、肥満および関連する代謝性疾患の予防につながる医薬品や食品成分の候補物質を発見できる可能性があります。

このたび EPD は創薬志向型植物データベースや豊富な天然物バンクを有する C-HAS+と共同研究契約を締結し、天然物に含まれる抗肥満等有用物質の探索を開始しました。

【Reference】

1) 厚生労働省 令和元年「国民健康・栄養調査」の結果

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_14156.html

2) OECD iLibrary The Heavy Burden of Obesity The Economics of Prevention

https://www.oecd-ilibrary.org/social-issues-migration-health/the-heavy-burden-of-obesity/summary/japanese_69eb163d-ja

【EPD 株式会社について】

EPS 創健科技集団有限公司が手掛けるヘルスケア分野の創薬事業において自社パイプラインの開発を推進するため 2021 年に設立された会社です。褐色脂肪細胞誘導技術を用いて、人々の健康の実現に貢献することを目指しています。

【株式会社 C-HAS プラスについて】

熊本大学が手掛ける天然物もの・こと作り事業を推進するため、2022 年に設立された大学発スタートアップです。天然資源探索ツール（オリジナル天然物バンクや素材開発に指向した植物情報データベース、線虫を活用した健康寿命評価システム（C-HAS）をコア技術として、自然と生命が調和する健幸社会を共に創ることを目指します。

本件に関するお問い合わせ先

EPD 株式会社 近藤 真次 E-mail : kondo.shinji385@eps.co.jp	株式会社 C-HAS プラス 小沢 享子 E-mail : info@c-hasplus.co.jp
---	--